

百人一首戲講釋

芝全交作
山東京傳
授合

百人一首戲講釋

13
2946
19



2946
19

昭和十年
二月二十二日

夫百人一首へ定家々々
百文貳朱へ生姜糖小倉野郎買

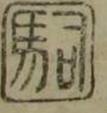
夫へ歌書是は菓子お菓子喰つてことさらぬ
草丹子お大意ありと卒屋の頼を娘人流一青の

作もいやく本れ作もいやく蕎麦切素麵喰ひ
といかと下卑の階やせざとさうめの孔明が餅廬よ

三度通ひ如く是非をいひ義理ほく先
名代さるるお客の如くお氣の毒くおごんと
紺屋のあさりのいりせんかおれようち向ひ

甲寅春

芝全交題



芝全交の曾と禪史小説を好むるが去年秋
 表紙の黄なる泉のちりむき上品中本戯文下生
 三の巻葉の蓮糸の絨物は長物語の長きうれを
 法を雖然生涯著述多きが中大悲經千六本大佛
 縁記の妙作の自讃佛乘もわづかきかると手
 向め線香の泪のめぐりをういひんうく
 人總と是と抑む 亦五文をうしあひ草双
 紙の音は知る者く是と愁るの満と彼の
 遺稿の後よ一首の夷歌とありて後

琴の音の通ふ松をももたらす曰と
 かと佛車一の餅をけうちや

山東京傳

福田文庫



